

コムギ黄斑病が収量・品質に及ぼす影響と効率的な防除体系

背景

近年、県内でコムギ黄斑病が多発し、収量や品質への影響が懸念されていました。

成果の内容

コムギ黄斑病の多発生が千粒重や容積重の低下による減収を引き起こすことを明らかにし、有効な薬剤による効率的な防除体系を確立しました。

試験区	発病度	収量(kg/10a)	千粒重(g)	容積重(g/L)	穂数(本/m ²)
多発生区	79.4	198(57.9)	28.4	765	564
少発生区	5.4	342(100)	34.2	804	567

令和5年度 病害虫部調査、一元配置分散分析を実施。***:p<0.001、**:p<0.01、*:p<0.05、ns; 有意差なし。

幼苗期・茎立期

止葉期・出穂期

開花期

コムギ黄斑病に対するステージ別防除対策



下位葉での発病を確認
(今後の発生に注意)



上位葉での発病を確認
(プロピコナゾール乳剤
による開花期前防除)



ピジフルメトフェン水和剤
による開花期防除

試験区	散布時期			発病度
	開花20日前頃	開花10日前頃	開花期	
①	○		☆	2.5
②		○	☆	5
③			☆	20.9
無散布	—	—	—	80.9

○:プロピコナゾール乳剤 ☆:ピジフルメトフェン水和剤

【研究チームのコメント】

○開花期前と開花期の2回散布により黄斑病を抑制し、小麦の安定生産に貢献できれば幸いです。



(病害虫チーム)